



本当の中国が見えてくる
日本人妻の歯ざしり
 ~今さらながら外国語は難しい~

「中国に住んで20年」と聞くと、「じゃあ、中国語はネイティブみたい？」と思われるだろう。私だって他人ならそう思う。が、私の中国語はネイティブとは程遠い。日常の大抵のことは聞き取れるし、話せるとは思っているが、まあ、とにかく程遠いのだ。

理由はいろいろある。まず、中国語を習い始めたのが遅かったことだ。外国語を習得するには若いに越したことはない。大人になると記憶力が弱くなるせいか、文法を気にしすぎるせいか進歩が遅い。私は30歳になってから始めた。大人のメリットもある。自分の日本語の語彙が多くなるので、中国語など漢字を使う言語は意味も理解しやすくなる。次の理由は、家で中国語を使わないことだ。夫は日本に留学後、日本の会社で働いていたので日本語がまだ話せる。今は夫も日本語を話す機会が減ったので、家では意地でも日本語を話している。私も家では力を抜きたいので、日本語を聞き、犬猫にも日本語を話している。最期にして最大の理由は、自分の目標が低いことだ。「これだけ環境と機会があれば通訳にでもなれそうなのに、私は何で目指さない!」と思ったこともあるが、そこまで自分を追い込むと病気になるしうそなのでやめた。ここではストレスを溜めないで暮らすことが一番だ。

私が自分の中国語のお粗末さに気付いたのは、今の工場に来てからだ。それまでもここで生活し、近所付き合いをしてきたにもかかわらず、従業員の会話にまったく入って行けない。工場は、夫の経営する会社の所有で、私には「お目付役」という立場がある。なのに仕事上の会話もできないのでは役に立たない。私の片言の中国語では、何を言っても言い返されてしまうのだ。「廊下がまだ汚いよ、今日掃除した?」と言うと「掃除当番は私じゃないから、私に言わないで! 当番の人に言つてよ!」とくる。「この商品、見本と違つたよね。見本通りに直して!」と言うと、

④

「少し違うくらい大丈夫でしょ。時間だから帰るね!」と、退勤時間きつかりに帰って行く。怒りで頭がくらくらしたが、私には言い返す語学力が無かった。ここでは相手以上に弁が立たなければやっていけないのだ! それからは出勤中、辞書を常に傍らに置き、すぐに使えるような短文は幾つも考え暗記した。

あれから10年。十数名いた従業員は4人に減り、私も辞書を取り出さない日が増えた。2、3ヶ月前のことだが、店で買い物ついでに店の人と話していると、「ひょっとしてあなたも日本人?」と聞かれた。最近では「この人?」と聞かれることはあっても、「どこの国の人?」と聞かれることはなかったから驚いた。「どうして分かるの?」と言うと、「だって、この前来た日本人と言動がそっくりなんだもん!」と言って「ハッハッハ!」と笑った。残念と納得の両方の気持ちがあった。残念は、日々中国語を使っているのに、まだ自然な表現ができていないのか? と思つたと。納得は、日本人の言動はやはり似ているのだ、と思つたことだ。10年前に比べると、中国語は表面上は上達したと思うが、やはり日本人独特の動作や表現をしてしまうことは変えようがない。今は、「日本人の中国語、結構ではないか」と割り切っている。

コロナ以降、夫も日本に行く機会が増えた。先月も日本から帰つてくると、「店で、『すみません、注文いいですか?』としか言っていないのに、外国人扱いされたよ、何で?」と言う。夫は「発音が悪いの? アクセントかなあ?」と悩んでいる。外国語を話す時、文法や発音だけでなく、ことばの選び方やそれに伴う動作、視線や表情、それら全部にその国の人らしさが出るものだと今は思う。外国では、その国の習慣に合わせてマナーよく行動することは大切だが、その国の人と同じように話せなくてもいいのではないだろうか。それを負け犬の遠吠えといふかもしれないが。

写真

春節(旧正月)です! 私の周りの春節風景です。

①「新年快樂!」のあいさつにこんなカードをメールで送りあいます。(写真右上)

②今年の「福飾り」は夫が買って来たもの。何でこんな力ワイイものを買ったのか?!

③お年玉は近年のキャッシュレスでスマホ決済というも聞か、うちは現金。

④大晦日に当たる「除夕」の食事は「年夜飯」と言って、家族が揃って食事をするのが習慣。上海には夫の甥家族がいるので、年夜飯は毎年彼らと一緒にです。今年は夫の姉が料理をたくさん作ってくれました! ありがとう! おいしく頂きました。(写真左上)

⑤同日、甥の家の近所にある古い町並みを残した観光地を散策。

⑥みんなで記念撮影。左から夫の甥、夫、甥の息子、夫の姉、甥の奥さん。



profile さねみつ じゅんこ
 岡山県出身 上海市在住 家族:夫、犬1匹、猫2匹。
 1989年 大学卒業後、教育・福祉関係の仕事に就く。1997年 中国人の夫と結婚。
 1998年 夫の赴任で上海に引っ越し、上海済経大学で中国語を学ぶ。
 2000年 日本語教師の仕事に就く。
 2005年 上海同済大学大学院入学。
 2008年 卒業。
 2008-2011年 病気治療のため日本に帰国
 2011年 上海に戻り、夫の経営する会社の工場勤務 今に至る

